

第6期東久留米市市民環境会議 第4回会議録

会 議 名	第6期東久留米市市民環境会議第4回会議
日 時	平成29年12月14日（火） 16時05分～18時40分
会 場	東久留米市役所 2階 205 会議室
出 席 者	出席委員数7名 欠席委員数0名
出席職員	環境政策課長 計画調整係長 緑と公園係長 計画調整係主事
内 容	I. 報告事項 1. 第6期第3回市民環境会議会議録（案）について 2. 環境政策課からの報告 3. 各部会報告 ・水とみどり部会 ・くらし部会 ・環境学習部会 ・広報担当者会議 II. 議 題 1 今後の市民環境会議のあり方について - 各作業グループの報告と意見交換 - ・連絡会組織の施行 ・市民活動団体の意向調査 ・近隣自治体の状況把握 ・「協働の指針」の学習 ・会員減少の原因の把握 2 その他 配布資料 資料1. 第6期第3回東久留米市市民環境会議会議録（案） 資料2. 環境シンポジウムアンケート集計結果 資料3-1. 水とみどり部会報告 資料3-2. 湧水調査結果（概要）29年11月 資料3-3. くるっとウォークチラシ2 資料3-4. 第6期水とみどり部会スケジュール 資料3-5. WG i 自然系環境活動連絡会について 資料4. WG ii 市民活動団体の意向調査について 資料5. WG iii 近隣自治体の状況把握について 資料6. WG iv 協働の仕組みづくりの検討・学習 資料7. WG v 市民環境会議の改善検討修正 資料8. 市民環境会議の今後に関する第6期経緯 参考資料 「平成28年度版かんきょう東久留米」 参考資料2 「協働の指針」（H29.10版） 議事内容 （⇒は意見、質問等 →質問等に対する回答） I. 報告事項 (1) 第6期第3回市民環境会議会議録（案）について（資料1）

了承された。

(2) 環境政策課からの報告

① 環境シンポジウムについて（資料2）

- ・11月19日（日）に市民プラザ屋内ひろばにて環境シンポジウム「みんながこのまちの生きものの係 Part2」を開催した。開始時来場者104名、来場者カード記入者41名、感想用紙記入者13名。
- ・発表について全体的に好評であった。
- ・発表環境については①会場内が明るすぎてスクリーンが見えづらい。②声が聞こえづらい。（マイクの調節、ホール内で行っていたダンススクールの音。）など、来年度に向けて改善すべき点が挙げられた。

⇒子どもの発表を後にした方が良かった。

⇒発表した子ども達はどのようなことで選ばれているのか、このような子供たちがその後も継続してこの分野に興味を持ち続けて欲しい。

→委員に講師の依頼のあった学校のうち、学習時期が発表に適している学校を選んでいる。学校によって4年生で教える内容（水がきれいだから生きものも多くいる。）5年生で教える内容（どうして水がきれいになったか。）のように変えているところもある。

② 「平成28年度版かんきょう東久留米」について（参考資料）

- ・環境審議会からの評価をまとめ、発行した。
- ・市民環境会議からいただいたご意見を反映できた点、そうでない点がある。
- ・平成28年度の主な事業としてP2～4にまとめた。

⇒冊子の平均値や単位について環境省や東京都に合わせるのがよい。今の表現方法では誤解が生まれる。

→環境基準を満たしていることを伝えたいのが一番である。次期の「かんきょう東久留米」については国や都の表示基準に合わないものは、合わせるようにする。

⇒黒目川上流域の親水化事業について新所沢街道～下里氷川神社ではCゾーンが完了ではないと思う。緑の基本計画との整合性も取れていない。

→Cゾーンはその後の継続事業の計画は無く、今回で完了となる。緑の基本計画には見直しに合わせて最新の情報を掲載する。

③ 第二次緑の基本計画中間見直しパブリックコメントについて

- ・12月18日よりHPに冊子のPDFをアップロードする。

⇒部会で意見を取り纏めて提出ではなく、個人で提出してもらう。

(3) 各部会報告

① 水とみどり部会

○豊水期湧水調査について（資料3-2）

10月の大雨の影響で既に湧水点から外した箇所からも湧水があった。

⇒降水量と地下水量を比較する良い機会だと思う。

この各所からの湧水状態を市民から写真などの情報を収集する、協力体制を作ることも必要。

○東久留米くるとウォーキングについて（資料3-3）

- ・名木写真展の準備に選定委員としてサポーターにも手伝ってもらった。

地域センターの指定管理者からも大きな協力をいただいた。

- ・西部地域：参加者5名、南部地域：参加者5名、 東部地域：参加者3名

参加者の少なさの要因として、集合・解散場所が違ったこと、集合場所が分かりにくかったこと、保険料を当日回収ではなく、事前回収にしたことがあげられた。

- ・展示については多くの人が関心を持ってもらえたようだ。
- ・ひばり図書館が興味を持ってくれたことから、今後は図書館で本を見て知識を付けてから活動しに行くイベントを検討している。

○第6期水とみどり部会スケジュール（資料3-4）

- ・環境フェスティバルでは部会から昨年好評だったブルーベリーの配布を検討。
- ・名木百選のパンフレットは環境フェスティバルに合わせて印刷・配布を行いたい。（予算が付き次第始める。）

② くらし部会

10月25日グリーンカーテンコンテスト表彰式を執り行った。

市民環境会議から菅谷副座長に出席いただいた。

③ 環境学習部会

- ・みのり塾について、10月29日に予定していた「ブロッコリーの収穫と蒸し野菜の体験」は大雨の影響で11月5日に延期した。野菜を収穫して食べるだけでなく、野菜の分類、由来などを野菜ソムリエさんからお話もあり、学習の機会となっている。今回はアブラナ科であるブロッコリー、キャベツ、大根の収穫体験、みのり塾初の蒸し料理として、生野菜との味を比較した。
- ・次回は1月28日に、里芋掘りに絡めた企画を実施する。

④ 広報担当者会議広報担当者会議

- ・特になし。

II. 議 題

(1) 今後の市民環境会議のあり方について-各作業グループの報告と意見交換-

まず最初に資料8に基づいて、「市民環境会議の今後」の検討に関する第6期の経緯と、特に前回全体会の結果を確認した。

① WG i 連絡会組織の施行（資料3-5）

○リーダーからの報告

- ・東久留米自然系環境活動連絡会（仮称）の立ち上げ、いくつかの市民団体に声掛けし、今回は生きものの系の連絡会として、春から夏の生き物調査にむけて準備を進めていく。
- ・最後は写真展を環境フェスティバルとは別に開催し、東久留米市の自然についてしてもらいたい。

⇒参加者に市内の小学校、市内の中学・高校の部活には声はかけるのか。若い人を取り込むツールとなる。

→自由学園には声をかける。その他は具体的な内容が固まってから声をかけた方がいいと思っている。

② WG ii 市民活動団体の意向調査（資料4）

○リーダーからの報告

- ・グループ内での意見集約が出来ていないので、リーダー取りまとめ案として提出した。
- ・市民団体の全般的な状況とご意向について知ることが今回の調査としている。別紙-2はそれを踏まえた質問内容の一覧。

・意向調査の方法として、企業等を除き市民活動団体に限定し、代表者にインタビューを行う。インタビューに応じてもらえなかった場合は書面アンケートとする。インタビュー候補一覧（別紙－1）は未完。

⇒別紙－2のNO. 1～4は、会則があったらいただけるようお願いした方が、時間が短縮できそう。

→了解。

⇒目的が抽象的すぎて団体の意向調査で終わるのではないか。各団体に対してどのような目的でインタビューを行うのか内部で議論をしてからがよいと考えられる。

意向調査の目的が不明確で、再度、何の目的 何を狙いとしてやるかの確認が必要。

→特定の方向に向けた誘導的質問は考えていない。一定の方向に拘ることなく、広く状況を把握して、どのような意向を持っておられるかを把握し、全体を知ることが今回の調査だと考えている。

⇒話し合いの発端、スタート時は市民環境会議の委員数が減ったことではないのか。

→発端は指摘の通りであるが、対応して内部的・外部的要因があるから、そこをどうするかを考えなければいけない。人数を増やすだけの今回の見直し検討ではない筈。

⇒自然系環境活動連絡会の準備会開催時に合わせてインタビューをしては？

→準備会的な場で、今回の調査について説明する機会を考えているが、そこでインタビューするまでは取り敢えず考えていない。その可能性もあり、今後検討する。

③ WG iii 近隣自治体の状況把握（資料5）

○リーダーからの報告

- ・東久留米市の市民環境会議と基本形態が似ているものに限定する。
- ・インタビューの相手は市民側の代表の方をお願いする。
- ・コンタクト方法として、まずは環境政策課から連絡先を教えてくださいようお願いをする。

⇒環境政策課から相手先の担当に市民側の代表者について教えてくださいよう動く。

また、まずは市民団体同士でのインタビューとして進めることで良い。

④ WG iv 「協働の指針」の学習（資料6）

○リーダーからの報告

- ・「まちづくりサポートセンター」や、河川整備事業におけるゆるやかな合意形成にむけての原則とルールについて学んだ。
- ・意見交換の結果、環境フェスタ、基本計画、名木百選などから市民環境会議では少しずつ協働の仕組みができていると考えられた。

⇒環境政策課は協働がうまくいっているほうである。行政側が発言しない会議もある。協働の形態は色々ありコラボ企画で上手く行っている課もある。て、他にも協働があるのか聞いていきたい。

→「まちサポ」は中間支援組織に徹するべきだった。まちサポのこれまでの活動は今回の協働の指針から外れている。

⇒まちサポは現在も代替わりをして活動が進められている。今文化的な活動を行っているが、本来の姿ではない。今後、市民環境会議が中間支援組織としてできるのか、まちサポを頭に入れて考えていく事は大切。大勢での合意形成はまとまらないこともある。

⇒財政支援や、活動場所（事務所）の問題も大事である。

⑤ WG v 会員減少の原因の把握（資料7）

○リーダーからの報告

・会議体の内部要因を把握するために、5期までの委員経験者にアンケート（インタビュー）を実施していくものとし資料を作成。また、考えられる要因のリストを作成し、全体会で検討する。

⇒市で経験者のリストを作成する。

・対外的な要因を把握するためには環境ボランティア団体や、一般市民へのアンケート調査を行う。

⇒社会的背景も考慮して考えるべきではないか。市民環境会議だけでなく、どのボランティア団体も収束気味である。社会的背景を把握して、そこに合わせるように柔軟にこちらが変化することも考えられる。

→社会情勢が直接的の要因となりにくいと判断した。また「社会」を考えていくと物事が大きくなりすぎる。

⇒増員をする際に外部的なものを踏まえた方がよい。現状でもはやっている団体があることから、何をやっているか把握するのが良いと思う。結果的に社会的背景とマッチングすることになる。

⑥ 今後の方向性について

・WGでの検討をすすめていく。

・市民活動団体へのインタビュー・アンケートについては複数のWGが関連するので、関係WGで調整を行う。

(2) その他

特に無し。

以 上

次回開催日 平成30年2月22日（木）午後4時から